



上：第一室展示全景
下：第二室展示全景

〈展示概要〉

第一章 美術館小史「美術館とコレクション」（第一、二室）

第一章は、二室にわたって美術館の歴史とコレクションを紹介する内容とした。第一室の冒頭にケースを特設し、収蔵品第一号である橋本関雪「唐犬」を象徴的に展示した。また建設期の図面や過去の展覧会資料、開館当初の写真や沿革を概説したパネルなどをあわせて設置して鑑賞の導入とした。引き続き、美術館のコレクションの形成と概要について、書画や工芸を中心とした阿部コレクション、住友コレクション、小西家伝来・尾形光琳関係資料、カザールコレクション、師古齋コレクション等を、第二室に彫刻や陶磁器などを中心とした山口コレクション、田万コレクション、小野コレクション、辻本コレクション、田原コレクション等を、それぞれ代表的な作例とパネルによって紹介した。（画像のキャプションに付したNo.は作品リストと一致する。以降同じ）



カザールコレクション（No.11-20）



冒頭を飾る橋本関雪「唐犬」（No.1）



石造 仏像頭部（No.25-27）



コレクション紹介パネル

第二章 美術鑑賞入門

「かたちをたのしむ 8・0・壺」^{は まる ツボ}（第三、四室）

第二章は、作品鑑賞の入門編として、「80周年」と「壺中之展」に掛けて、「かたち」を軸に「八」「〇」「壺」に関連する作品を集めて構成した。作品は陶磁器や漆器、金工を中心とした。時代や地域、作品のジャンルをこえて、目に見える「かたち」から作品に触れて鑑賞を楽しむことを目指した試みであり、親しみやすい内容となるように企画した。第三室は「八」をテーマに八角盆や八稜鏡など、第四室は「〇」をテーマに饅頭根付やまるい大香合、尾形光琳の円形図案集など、つづいて「壺」として隋唐時代の瓶や壺、エトルリアの壺、さらに「壺」＝「容器」ととらえ、香合や匂箱などを出陳した。



上：第三室展示全景
下：第四室展示全景



上：根付 (no.46-1～10)
右上：「故事人物時絵堤重」(no.32)
右下：エトルリアの壺 (no.46-1～10)



第三章 日本美術①「ももやまびと桃山人——肖像画レクイエム」(第五室)

第三章は、日本美術の展示として、当館コレクションの特色の一つである中近世絵画を中心に三室、また中国憧憬をテーマに江戸から明治期の煎茶文化に焦点を当てて一室を構成した。日本美術①では、桃山から江戸初期の武家肖像画を中心として、同時代の屏風や彫刻・工芸作品をあわせて展観した。当時の肖像画は主に追善供養のための遺像として制作されたことから、羅漢図や木造祖師像などの仏教美術も展示に組み込んだ。また、本展示の出陳作には、開館の昭和十一年に受入れた寄託作品が含まれており、太閤秀吉プランドを意識した当館初期の収集戦略もうかがえる内容となった。



上から
 : 展示室全景
 : 展示風景
 : 「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」(no.76)
 : 肖像画 (no.60-64)

第三章 日本美術② 「洗練華麗の極み」(第八室)

日本美術②では、当館の主要なコレクションの一つである「小西家伝来・尾形光琳関係資料」を中心に、琳派の作品を展観した。この資料は、光琳の息子・寿市郎の養子先である小西家に伝えられたもので、光琳による画稿や工芸図案だけでなく、生家である高級呉服商・雁金屋^{かりかね}の衣装図案帳や関係文書など、その私生活や趣味をもうかがうことができる第一級の資料として知られている。これらの資料とともに、光琳の「燕子花図」をはじめとする琳派の華やかな草花図もあわせて紹介した。



上から
：展示風景
：展示室全景
：尾形光琳「梅蒔絵箱図案」(no.84)
：「藤袴図屏風」(no.79)

第三章 日本美術③ 「爛熟の江戸文化」(第七室)

日本美術③では、館蔵・寄託品によって江戸時代後期の絵画を展観した。京の池大雅や伊藤若冲、江戸の谷文晁や葛飾北斎、また大坂の岡田米山人や森狙仙といった当代一流の絵師たちの作品をとりあげ、個性豊かに華やぐ江戸絵画の爛熟期を魅せる内容とした。なお、当館所蔵の葛飾北斎「潮干狩図」(重要文化財)は、平成二十六年の修理後、本展示において初披露となった。



- 上から
 : 展示風景
 : 展示風景 (no.106-108)
 : 葛飾北斎「潮干狩図」(no.103)
 : 伊藤若冲「蔬菜図押絵貼屏風」(no.79)